

日本SOD研究会報

No.42

第32回 国際皮膚科学会

丹羽先生の特別講演決定

本年

9月19日～21日までスイスのジュネーブで第32回の国際皮膚科学会が開催され、そこで私の特別講演が決まりました。

この学会は、国際皮膚科学会で最も権威のある総会で、世界の一流の学者が応募しますので、6～8分の講演にもなかなか採用してもらえず、90%以上の応募者がポスターの提示のみだけになっています。私も5～6回過去にこの学会に応募しましたが、皆ポスターに回されました。今回も駄目かと思いましたが、一応応募した所、初めて講演に採用され、その後Plenary session（参加者全員が出席を義務付けられている会）での総会講演に指名されました。日本の内科とか皮膚科とか、癌などの学会の総会で、Plenary sessionの特別講演は、まあ、大学教授

であれば、勉強している人は特別講演に指名されます。ただ、この超一流の国際学会では、日本人は殆どと言っていいくらい、Plenary sessionの総会講演には指名されません。殆ど大学の教授も講演どころか、ポスターに回されています。

一度

アメリカにいた時、ノーベル医学賞をもらった利根川さんが、こういう学会でしゃべっているのを聞きました。数千人の世界各国の大学教授が集まった所で、下手な英語で滔々と講演している利根川先生を見て、私も死ぬまでに一度位はこういう所で講演をしてみたいと思っていました。とんでもない思わぬ夢が現実となりました。また、最近、非常に

副作用の強い（抗癌剤なみの）免疫抑制剤が日本のみならず、世界各国でアトピーの軟膏に認可されてほとんど使われ始めています。私の研究所の実験でこの軟膏を塗ると、沢山のネズミが（人間に換算すると数年後に）皮膚癌になります。このような結果は、この恐ろしい薬剤の基本的なメカニズムを考えると当然予測出来ることです。私は全世界の学者の前で、このような薬剤を、しかも命をとらないアトピーに使用しようとする製薬会社、またそれを認可しようとする世界25カ国の文明国の政府の、西洋医学そのものに対する基本的な姿勢に大いに問題があるということをおの総会講演で強く訴えたいです。私の20年やって来た自然回帰による丹羽療法の考え方の正しさが、世界に、一番よい学会で、発表出来るということは非常に嬉しいことで、私の20年の丹羽療法の総決算とも言える学会です。

私の講演のsessionは9月19日午後4時15分から始まります。一応案内も英語ですが、同封しておきますので、このようなチャンスは一生に二度と与えられるようなことではありませんので、宜しかったら予定を作って皆さんスイスまでいらして下さい。

丹羽耕三（執筆）

「こころと体の不思議」国際フォーラム 第14回 生命情報科学シンポジウム

特別講演“丹羽療法20年の歩み”

1. 天然の生薬活性化の秘訣
2. 優れたBiological Medicineの紹介とその作用
3. ステロイドフリーの免疫抑制剤軟膏は強力な発がん性がある

去

る8月26日、第14回生命情報科学シンポジウムで丹羽先生が首記演題に付き特別講演をされました。特にSOD作用食品など、科学的データをもとに丹羽先生の生薬の開発の基本的問題を中心に70分ほど話されました。この学会は、丹羽先生と同じ考え方で、なるべく副作用の強い化学薬品を使用せず、自然回帰の治療を行っている先生の集まりで、日本の学者だけでなく外国の学者も大勢集まりました。（詳しい内容にしましては、(株)フジ流通システム 04-9-255-7311まで）

がん 予防 最前線 …… 肝がん



がんの死因で、肺がん、胃がんに次いで多いのが肝がんだ。厚生労働省によると、死亡者はこの25年で3倍に増え、昨年の死亡者数は約3万4000人。肝がんの発生には、B型やC型など肝炎ウイルスが深くかかわっている。ウイルスを持っているが発症はしていないウイルス・キャリアーや肝炎患者がハイリスクグループに入る。「肝炎ウイルスの早期発見が肝がん予防の第一歩」と医師らは強調している。【明珍美紀】

肝炎ウイルスの検査を

肝がんの 9割は感染

日 本では肝がん患者の約8割がC型肝炎ウイルスに感染しているといわれる。

東京大学医学部消化器内科のデータ（95年）でも、肝がん患者（205人）の83%（170人）がC型肝炎ウイルスに、11%（23人）がB型肝炎ウイルスに感染し、これだけで94%にのぼっていた。

同大の小俣政男教授によると、C型

肝炎ウイルスの感染は過去の輸血が4割を占めるといふ。

ウイルス・キャリアーの人が慢性肝炎になると肝臓が硬くなる線維化が進み、極めてゆるやかだが肝硬変を経て肝がんに行きわたることがある。「肝硬変になると10年で7割程度の確率で発がんする」と小俣教授は説明する。つまり、肝がんを防ぐ最大のポイントはC型肝炎ウイルスの早期発見だ。

ウイルスの有無は病院などで実施する抗体検査で分かる。C型肝炎ウイルスの感染者は全国で150万人前後と推定され、厚生労働省は今年4月、病院で行われているC型肝炎ウイルスの

検査を、保健所でも実施するよう都道府県などに要請。準備期間として10月末まで無料で検査を実施している保健所も多い。

C型肝炎では、最近たんぱく質の一種のインターフェロン療法により有効率3割で除去も可能になった。新薬の開発も進む。また肝がんに至るには、感染 慢性肝炎の軽度 中度 重度 肝硬変 肝がんと段階があり、自分どの段階にいるかは、血液中の血小板の数で知ることができ、医師と相談することが必要だ。

「いずれにせよ、一生に1回でもいいから抗体検査によりC型肝炎ウイルス

に感染しているか否かを調べてほしい」と小俣教授は話す。

肝臓をいた わる生活を

ウ イルス感染を防ぐにはどうすればいいか。

都立荏原病院外科の済陽高徳医師によると、B型肝炎ウイルスの場合、慢性肝炎になるケースのほとんどは母子感染で、ウイルス・キャリアーの母親が出産する時、産道を通じて子どもに感染する。現在は、妊婦がキャリアーと

分かったら、生まれた子どもに検査やワクチンを投与する措置が取られ、母子感染を防げるようになった。

C型肝炎ウイルスも、「今は輸血用血液の厳しいチェックで輸血による感染はまず心配ない」と済陽医師は話す。しかし、歯ブラシやかみそりは自分専用のものを使うなど、衛生面に気を配った方がいい。

発症しない ためには

ウイルスを持った人が発症しないためには、「十分に休養を取ることが大切で、肝臓の血流や代謝を助けるため食後の休みも心がけたい」と済陽医師。週2日はお酒を飲まない「休肝日」をつくるなど、肝臓への負担は少なくすることも大切だ。

栄養面はどうか。元国立がんセンター疫学部長で東京農業大の渡辺昌教授（疫学・栄養学）は、「肝臓には主として発がん物質を抑える含硫化合物、つまり硫黄を含むものが多い」という。具体的にはニンニク、タマネギなどを勧める。実際に肝炎の治療薬の成分にはこれらのエキスが使われている。また活性酸素を抑えるプロココリーなどの緑黄色野菜や肝細胞の代謝をよくす

るタウリンを含むシジミやホタテなどの貝類、コンブなどの海藻類もがん抑制の働きがある。「バランスのいい食事と適度な運動、そして休養が基本だ」と渡辺教授は話している。



肝がん予防のポイント

- 肝炎ウイルスのチェック
- 衛生面に注意し感染の機会を減らす
- 睡眠や食休みなど十分な休養で肝臓をいたわる
- 動物性脂肪は少なく肥満を避ける
- 週2回アルコールは控える

(済陽高穂医師による)

SOD様作用食品の開発

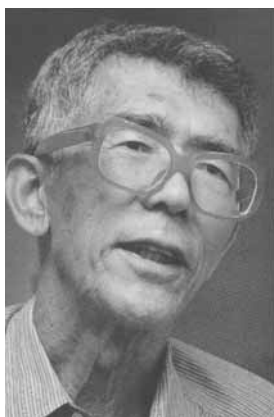
丹羽SOD様作用食品の開発者である丹羽耕三博士は、丹羽免疫研究所所長であり土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場で、癌、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられています。

丹羽博士は昭和37年に京都大学医学部を卒業され、医学博士を取得されました。その後、活性酸素とSODの研究を臨床家として国内はもちろん、世界的にも最も早くから手掛ければ、世界的権威として、広く海外に知られています。

SODなどの生体防御の研究論文が著名な英文国際医学雑誌に続けて発表され、その数は70編を越します。多忙な治療の傍ら、国際医学専門誌(Biochemical Pharmacology)への投稿論文の審査員もされています。国内では、ヘーチエット病やリュウマチ、アトピー性皮膚炎の治療・

研究に長年従事し、多くの難病の原因を活性酸素の異常から解明し、これらの難病の治療に関して、SOD様作用食品等の低分子抗酸化剤や抗癌剤を自然の植物・穀物より開発し、大きな治療効果を上げています。

私が開発した天然の抗酸化剤であるSOD様作用食品は、いま全国何十万人、何百万人という方々に健康食品として愛用されています。何百人という医師にも医療現場で難病の患者さんに使っていただき、優れた治療効果をあげています。



丹羽耕三博士

あしたも元氣 (No.34)

肥満のメカニズムを知ろう!
正しいダイエット

最近、中国製のダイエット用食品の健康被害が問題となっています。しかし、ダイエット用食品のこういった問題は以前から少なからずあったとされています。特に女性はホルモンのバランスが崩れる...といったものです。このような問題をなくすためには、『肥満』について正しい知識を持ち、『正しいダイエット』を実行していくことが大切です。

肥満とは?

「太っている」「痩せている」というのは、体重や体型だけで判断するものではありません。体全体に占める脂肪の割合、つまり『体脂肪率』が正常範囲より上回ることを肥満といえます。

1つは脂肪細胞数が増加する肥満で、いったん増えた脂肪細胞の数を減らすのは難しいとされています。もう1つは、中年太りといわれるもので、脂肪細胞数は正常でも細胞の大きさが肥大していくのです。

食へ過ぎによる肥満

体が必要とする以上のカロリーを摂取してしまうこと、つまり摂取エネルギーが消費エネルギーを上回ると余分なエネルギーが脂肪に変えられて、脂肪細胞となって体に蓄えられます。これが肥満の原因です。

体脂肪率	正常範囲	肥満
成人男性	15~20%	25%以上
成人女性	20~25%	30%以上

脂肪は1gあたり9kcalのエネルギーを持っています。糖質やタンパク質は1gあたり4kcalです。つまり脂肪の多い食事をすれば、摂取エネルギーが多くなります。

偏食などによる肥満

食へ過ぎなくても、偏食などを繰り返していれば肥満の原因となります。たとえば、1日2食で食事の間隔が長くなると、食物のエネルギーが体に余分な脂肪を蓄えてしまいます。また、夜に食事の摂取量が多いのも肥満の原因です。夜は栄養が吸収されやすく余分なエネルギーになりやすいのです。

正しいダイエットとは?

摂取エネルギーが消費エネルギーを上回らないようにすること
摂取エネルギーの制限 よく体を動かす事を前提として男性なら1400kcal、1800kcal、女性なら1200kcal、1600kcalを実行すると、1日に約500kcalのエネルギーの不足が起これば月に1~2kgの減量が可能となります。

タンパク質、脂質、糖質の必要量は確保すること...体を構成する重要な栄養素です。
ビタミン、ミネラルを摂取すること...脂肪を分解するために必要です。不足すると食べる量を控えていても思ったほど減量できません。
食物繊維を摂取すること...食物繊維は低エネルギーであり、便秘などにも効果的です。
偏食を避けること
ゆっくり食へること
夜型の食事を見直すこと
運動をすること、体をこまめによく動かすこと

ダイエットの鉄則

- 1 体に障害を与えないこと!
 - 2 体重だけではなく体脂肪を減らすこと!
 - 3 リバウンドをさせないこと!
 - 4 短期ではなく、ゆっくり長時間かけるつもりで取り組むこと!
- 他力本願、ラクしてダイエットはできません

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介します。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

- 「安心の医療・本当の健康」(みき書房(株))
- 「クスリで病気は治らない」(みき書房(株))
- 「白血病の息子が教えてくれた医学の心」(草思社(株))
- 「活性酸素で死なないための食事学」(廣済堂(株))
- 「正しい『アトピー』の知識」(廣済堂(株))
- 「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」(廣済堂(株))
- 「医は仁術なり」(致知出版(株))
- 「SOD様作用食品の効果」(小冊子) リーフレット全20巻

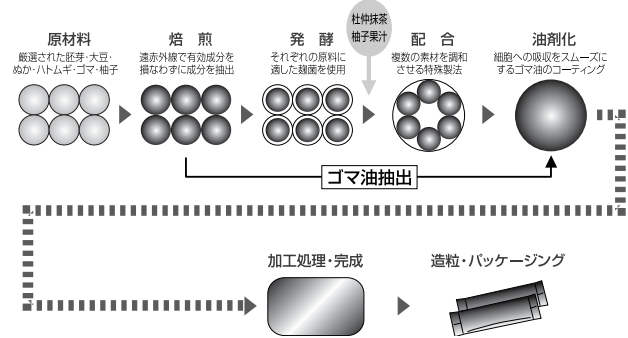


SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて
日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会
(049-255-8728・FAX兼用)
までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品

『SODロイヤル』が製品になるまで



丹羽博士が開発した特許抗酸化食品 SOD様作用食品

SOD ロイヤル 天然製材

自然のミネラル カフェインはゼロ

ルイボスTX 奇跡のお茶濃縮タイプ

奇跡のお茶濃縮タイプ

ゴマ油抽出

【お問い合わせ先】